

派遣報告書（報告者：千原翔太）

大会名	第7回全日本社会人バスケットボール選手権大会		
開催地	熊本県熊本市 熊本市総合体育館		
日 時	令和7年 2月 8日（金）～ 10日（日）		
担当ゲーム1	（男子1回戦）ABF（中国1位） vs 東京消防庁（関東5位）		
相手審判	CC：水木順仁（秋田県） U1：佐多裕樹（宮崎県） U2：千原翔太（大分県）		
Pre-Game Conference			
・チームスカウティング（プレイヤーやチームの特徴の理解・戦術面の認識） ・ベンチとコントロール ・IOTについて ・プライマリーについて			
Post-Game Conference			
・クルーとしての連携は良かった ・オフェンスシューターのキックアウトをコールしたが、判定は良いがその後の再開までをパッケージとして持っておきスムーズにできると良い。			
担当ゲーム2	（女子2回戦）RIZING REDS（関東5位） vs ひらまつ病院（九州1位）		
相手審判	CC：山住泰光（広島県） U1：藤原英幸（岩手県） U2：千原 翔太（大分県）		
Pre-Game Conference			
・ベンチコントロール ・IoTについて ・テンポセットについて			
Post-Game Conference			
・自分のプライマリーで大きな接触がある場合は、何かしらのコールをすべきケースがあったのではないかと。 ・外国籍の選手への3秒など、前半の段階でコールできると良かった。			
今大会を通して			

今大会ではクルー、選手、ベンチとコミュニケーションを取りながら、適切にゲームの舵を切れることを課題として臨みました。クルーの協力もあり、担当ゲームでは処置ミスに至ることなく、選手やベンチとコミュニケーションを取りながら、適切にゲームの運営を行うことが出来ました。また、会場で気になるゲーム中のコミュニケーションがあった場合は、どのような対応をしているのか他県の審判員に積極的に質問を行いました。相手の立場に立った発言であったり、真摯に事象に対して説明したり、毅然という言葉より「受容」「寛容」という印象を持ちました。また、全国では稀なケースに出会う機会も増えるので、改めてルールブックの精読しておくこと、判定後の対応までをパッケージとして持つておくことの大切さを痛感しました。今後の審判活動に生かしてまいります。本大会に派遣いただき多くの学びを得ることが出来ました。関係者の皆様に御礼申し上げます。